

公益社団法人 日本水産学会
令和元年度第5回理事会議事録

- 1 開催された日時 令和元年9月8日(日)9時55分～14時12分
(休憩11時52分～13時00分)
- 2 開催された場所 福井県立大学 永平寺キャンパス 共通講義棟 206教室
(福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1)
- 3 理事総数及び定足数
総数 19名, 定足数 10名
- 4 出席理事総数 16名
(本人出席) 家戸敬太郎, 金子豊二, 黒倉 寿, 小梶 聡, 越塩俊介, 佐藤秀一, 高野みゆき(旧姓:馬久地), 東海 正, 中田英昭, 萩原篤志, 日向野純也, 舞田正志, 安井 肇, 吉崎悟朗
(途中退席) 岡崎恵美子, (決議事項 第17号議案「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の審議後11時52分に退席), 横山芳博(決議事項 第17号議案「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の審議後11時52分から報告事項 第4回理事会以降の職務執行の状況 国際交流関係報告中 13時40分まで退席)
(出席監事) 杉田治男
(出席幹事) 坂本 崇, 遠藤雅人, 二羽恭介, 福島英登, 矢澤良輔, 甘糟和男

5 議 案

決議事項

- 第1号議案 「水産環境保全委員会委員の交代」の件
- 第2号議案 「水産増殖懇話会委員会委員の交代」の件
- 第3号議案 「投稿規程の一部改正」の件
- 第4号議案 「名誉会員能勢幸雄氏の追悼文掲載」の件
- 第5号議案 「名誉会員山中英明氏の追悼文掲載」の件
- 第6号議案 「オンライン決済(PayPal)の導入」の件
- 第7号議案 「丸善出版提案の「水産学の百科事典(仮)企画」の件
- 第8号議案 「水産学シリーズ「魚食と健康」韓国語版の契約書の名義変更」の件
- 第9号議案 「令和元年度秋季大会の会期短縮」の件
- 第10号議案 「令和2年度春季大会運営委託業者」の件
- 第11号議案 「令和2年度春季大会募金目論見書」の件
- 第12号議案 「第18回日本農学進歩賞受賞候補者の推薦」の件
- 第13号議案 「共催及び後援」の件
- 第14号議案 「日本学会議主催公開シンポジウム「わが国の水産養殖の未来像」実行委員会の設置及び委員長・副委員長・委員選出」の件
- 第15号議案 「日本学会議主催公開シンポジウム「わが国の水産養殖の未来像」募金目論見書」の件
- 第16号議案 「入会承認」の件
- 第17号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

報告事項 ① 第4回理事会以降の職務執行の状況

② その他確認事項

6 議事の経過及びその結果

(1) 令和元年度秋季大会実行委員長の挨拶

佐藤会長の挨拶の後、福井県立大学 横山芳博 大会実行委員長より挨拶があった。

(2) 定足数の確認等

佐藤会長が定足数の充足を確認し、続いて本会議の議事進行について説明があった。

(3) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、佐藤会長が議長となり、本会議の成立を宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

第1号議案 「水産環境保全委員会委員の交代」の件

吉崎総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下のとおり可決した。

[退任] 渡邊剛幸 [選出] 高久 浩

第2号議案 「水産増殖懇話会委員会委員の交代」の件

吉崎総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下のとおり可決した。

[退任] 鈴木秀和 [選出] 和田勇志

第3号議案 「投稿規程の一部改正」の件（別紙1）

東海財務担当理事から、Fisheries Science の消費税課税及び税率変更に伴う一部改正について原案の説明があった。本件について以下の質疑応答があった。

吉崎理事 「「**」の説明は「会員 4,000 円」の説明でよろしいか。そうであれば、「会員 4000 円」の後ろに「**」を付記すべきではないか。」

東海理事 「修正をお願いしたい。」

金子理事 「「本規程は平成23年3月1日に遡って実施する。」とあるが、この文言との整合性はどのようになるのか。」

東海理事 「この文言については「会員 4000 円」に係るものであり、本改定については（令和元年9月8日 一部改正）のほうで対応していると読んでいただきたい。」

金子理事 「カラー印刷費について改定案では税別 55,500 円となっているが誤りではないか。」

東海理事 「55,000 円である。訂正をお願いしたい。」

審議の結果、原案を一部修正のうえ、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第4号議案 「名誉会員能勢幸雄氏の追悼文掲載」の件

吉崎総務担当理事から、名誉会員能勢幸雄氏の追悼文について原案の説明があった。出席理事全員で原案の確認を行ったところ、幾つかの修正意見が出された。審議の結果、原案を一部修正のうえ、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案 「名誉会員山中英明氏の追悼文掲載」の件

吉崎総務担当理事から、名誉会員山中英明氏の追悼文について原案の説明があった。出席理事全員で原案の確認を行ったところ、幾つかの修正意見が出された。審議の結果、

原案を一部修正のうえ、出席理事全員一致で可決した。

第6号議案 「オンライン決済 (PayPal) の導入」の件

東海財務担当理事から、オンライン決済 (PayPal) の試行的導入について原案の説明がなされた。本件について以下の質疑応答があった。

佐藤会長 「クレジット決済は残すということによろしいか。」

東海理事 「PayPal 利用しやすさを考慮し、今後、使い勝手がよければクレジット決済の廃止についても議論が出てくると考えられる。学会としてはクレジット情報を保有せずに金銭のやり取りを行いたいという意向がある。」

金子理事 「スマートフォンで決済するのか。」

東海理事 「スマートフォン、PC いずれにせよ、ネット決済を行える。」

萩原理事 「アジア水産学会の年会費と大会参加費は PayPal での支払いが可能である。ネットで検索すると PayPal での不正使用もないわけではないのでリスクはある。」

越塩理事 「手続きが面倒でメリット、デメリットがわかりにくい、海外で多くの方に利用されているのであれば、今回は海外の方が利用することになるのでメリットがあると思われる。」

東海理事 「現在、日本語の案内もある。主に海外向けのネットショッピングを行う事業者が PayPal を利用しているようである。他の決済システムも調べたが利用者数や手数料を鑑みて PayPal を選定した。」

黒倉理事 「日本人の支払いもあり得るか。」

東海理事 「使いたい方がいれば、利用は可能である。クレジットカードよりは学会が支払う手数料は少なくなる。」

佐藤会長 「いつぐらいから開始される予定か。」

東海理事 「準備ができ次第、連絡する。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第7号議案 「丸善出版提案の「水産学の百科事典(仮)企画」の件

越塩出版担当理事から、丸善出版からの「水産学の百科事典」企画案概要書の説明がなされ、本件については出版委員会で議論の結果、単独での対応は困難であり、専門委員会を設置して対応するか、理事会で方向性を示してほしいとの要望があった。さらに学会全体で対応・協力する場合は役割分担、独自の編集委員会の設置、執筆者の推薦、また、水産学会で編集・編纂を行う場合は理事会で出版方針の決定、選任委員会の設立、委員長の選定まで行ってほしいとの要望があった。既に動物学や魚類学の百科事典が出版されているが、それらの内容との整合性についても考慮が必要であるとの見解が示された。続いて佐藤会長から、これまで3冊のハンドブックが出版されているが、依頼されている書籍はそれらとは異なり、一般向けの書籍であるため、議論が必要であるとの説明があった。この件について以下の質疑応答があった。

金子理事 「これまで刊行されたハンドブック数冊には水産学会はかかわっていないので本学会が関与することに疑問がある。学会の負担が大きい。」

吉崎理事 「魚類学の百科事典は日本魚類学会が対応していたが、その関与がどの程度かについては把握していない。現状のトピックを入れ込んである書籍であると感じた。」

- 黒倉理事 「トピックが内容の中心であれば、学会が関与して権威付けをすることが必要である。」
- 吉崎理事 「本提案は丸善から出版委員会に直接持ち込まれた企画か。」
- 越塩理事 「そうである。出版委員会としては単独で対応することが不可能であるので理事会で審議していただきたい。」
- 萩原理事 「編集に関わる作業に関しては無報酬なのか、何らかの報酬が丸善からあるのか。」
- 金子理事 「おそらく初回の印税だけだと考えられる。出版委員会では積極的にやっていく方向性か。」
- 越塩理事 「単独での対応は困難である。やる場合は理事会の支援が必要である。」
- 佐藤会長 「詳細な企画案が提示されているが、内容が決まっているわけではない。」
- 越塩理事 「出版委員会では本提案を進める場合は特別委員会の設置を検討する必要があるとの認識である。」
- 吉崎理事 「2回目からの印税に関して魚類学などはさまざまな形の愛好者がおり、百科事典のような高額な書籍が出版後にも売れる可能性はあるが、水産学はそのようなことがあるのか疑問である。」
- 金子理事 「本学会は公益社団法人であるので公益性の担保が必要である。また、本提案は会員に負担がかかる。学会誌の編集は学会にとって必要不可欠であるので会員に尽力してもらっているが、本提案がそれに匹敵するのかは疑問である。」
- 佐藤会長 「先行の百科事典出版時の関連学会の対応の詳細情報を得て、対応を検討することがよい。」
- 越塩理事 「今回の議案は持ち越しとして関係各所から先行事例の情報を得ることとする。」
- 萩原理事 「若手会員の支援も依頼してはどうか。」
- 佐藤会長 「執筆者の選定時に若手を起用することは可能である。」
- 金子理事 「学会を背負うというよりは学会を支援するというくらいのほうが会員も関与しやすい。」
- 東海理事 「先行事例は関連学会が編集を行っているが、原稿をチェックする監修になるのか。その点についても負担の面から検討が必要である。」
- 金子理事 「恒星社厚生閣は出版委員会と一体となって協力して出版物の制作を行っているが、丸善は大手なので特別な協力・支援も難しいと考えられる。」
- 佐藤会長 「本件に関わる先行事例の情報収集をお願いしたい。」
- 越塩理事 「承知した。」

審議の結果、本議案は継続審議とし、今後、先行事例の情報を得ることとした。

第8号議案 「水産学シリーズ「魚食と健康」韓国語版の契約書の名義変更」の件

越塩出版担当理事から、水産学シリーズ「魚食と健康」韓国語版の契約者をCIR Co. Ltd.から韓国海洋科学技術院に変更する件について説明があった。本件は韓国側から要請がなされており、恒星社厚生閣および出版委員会では議論の結果、了承が得られている。この件について以下の質疑応答があった。

黒倉理事 「契約については恒星社厚生閣と韓国側とで結ぶべきものであるが、韓国海

洋科学技術院は発行所としての機能があるのか。」

越塩理事 「国の機関であるので問題ないと考えられる。」

佐藤会長 「名義変更に至った経緯も不明である。」

越塩理事 「経緯については CIR Co. Ltd.と韓国海洋科学技術院との共同で出版を進めることになったことに起因していると思われる。」

東海理事 「名義を変更して国の資金が使われるのではないか。」

越塩理事 「このまま進めさせていただいて変更の経緯の詳細を調査したい。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。なお、変更に至った経緯について確認を行うこととした。

第9号議案 「令和元年度秋季大会の会期短縮」の件

横山中部支部担当理事から、令和元年度秋季大会の会期短縮について原案の説明があった。この件について以下の質疑応答があった。

金子理事 「ポスター開催が早まった理由は何か。」

横山理事 「ポスターコンペティション（若手部門）の表彰を会員交歓会で行うため、受賞対象者の発表を前倒しにした。」

審議の結果、出席理事全員一致で以下のとおり可決した。

[変更前] 令和元年9月8日～11日 [変更後] 令和元年9月8日～10日

第10号議案 「令和2年度春季大会運営委託業者」の件

舞田関東支部担当理事から、令和2年度春季大会運営委託業者の見積書の説明があった。この件について以下の質疑応答があった。

佐藤会長 「選定業者のトーヨー企画の見積もり内容は例年と比較して変わったところはあるか。」

舞田理事 「金額は消費税の金額が変わっただけでほぼ据え置きである。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第11号議案 「令和2年度春季大会募金目論見書」の件

舞田関東支部担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第12号議案 「第18回日本農学進歩賞受賞候補者の推薦」の件

萩原学会賞担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第13号議案 「共催及び後援」の件

吉崎総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下の共催及び後援を可決した。

①日本学術会議公開シンポジウム「国連の持続可能な海洋科学の10年－One Oceanの行動に向けて」

主 催 日本学術会議海洋生物学分科会，同 SCOR 分科会

後 援 日本海洋政策学会 他3学協会（予定）

日 程 令和元年11月6日

場 所 笹川平和財団海洋政策研究所国際会議場（東京都港区）

希 望 後援

負担金 なし

②日本学術会議公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2019」

主 催 日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題
分科会，福島大学
後 援 日本農学アカデミー 他 12 団体
日 程 令和元年 11 月 30 日
場 所 福島大学（福島県福島市）
希 望 後援
負担金 なし

③日本学術会議公開シンポジウム「わが国の水産養殖の未来像」

主 催 日本学術会議食料科学委員会水産学分科会
共 催 水産・海洋科学研究連絡協議会 他 2 団体
後 援 全国漁業協同組合連合会 他 16 学協会
日 程 令和元年 12 月 19 日
場 所 日本学術会議講堂（東京都港区）
希 望 共催
負担金 なし

本件について以下の質疑応答があった。

萩原理事 「①及び②については私も当事者となっているが，後援の承認について連絡は事務局に依頼できるか。」

佐藤会長 「事務局からメールで連絡する。」

審議の結果，出席理事全員一致で原案どおり可決した。

第 14 号議案 「日本学術会議主催公開シンポジウム「わが国の水産養殖の未来像」実行委員会の設置及び委員長・副委員長・委員選出」の件

吉崎担当理事から，原案の説明があった。審議の結果，出席理事全員一致で以下とおり可決した。

委員長 竹内俊郎

副委員長 佐野元彦

委 員 塩出大輔，二羽恭介，石井さと子

第 15 号議案 「日本学術会議主催公開シンポジウム「わが国の水産養殖の未来像」募金目論見書」の件

吉崎総務担当理事から，原案の説明があった。この件について以下の質疑応答があった。

萩原理事 「募金に対しては税制上の優遇措置が適応されるということであったが，大会自体の運営経費には税制の優遇措置はあるのか。」

金子理事 「優遇される。」

萩原理事 「大会で寄付の振込等に利用する銀行口座に関して各支部で保有している口座を充てることは可能か。」

金子理事 「支部と大会実行委員会の運営者が一致していれば，口座の利用は可能だと考えられるが，実際には異なる場合が多いので難しいと思われる。」

舞田理事 「支部では 1 期ごとに口座を作り変えている。大会の運営で重要なのは大会委員長名で領収書を発行できることである。」

横山理事 「募金の目標額は8万円で良いのか。」

吉崎理事 「例年、この程度の金額である。寄付の予測をもとに金額を見積もっている。」

佐藤会長 「今年は他学会の先生方が東京近郊から出席されるので低い金額になっている。」

舞田理事 「締め切り前に寄付目標額に達した場合はどのような取扱いになるのか。学会の収益になるのか。」

佐藤会長 「募金の予測をもとに金額を算出しており、目標金額に達した場合には終了している。例年、大幅な金額超過は発生していない。」

審議の結果、出席理事全員一致で可決した。

第16号議案 「入会承認」の件

入会希望者リストの回覧を行い、審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第17号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

社会人学生の会員資格の取扱い変更に関する申し合わせを適用した。本件について以下の質疑応答があった。

金子理事 「資格変更をすると年会費が安くなるが、正会員としての権利も失うことになる。」

吉崎理事 「この点に関しては申し出があった場合ということで社会人学生であっても正会員を継続することも可能である。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

(報告事項)

① 第4回理事会以降の職務執行の状況

・会長

佐藤会長から、次の報告があった。

1) 水産学若手の会委員会について

a) 令和元年度秋季大会中の9月8日に水産増殖懇話会と共催で「北陸の増養殖研究：地域を支える公設試験場の若手研究者」と題してシンポジウムを開催する。

b) 公設試験場の若手研究者を主対象とするアンケートを実施する。また、アクティブラーニングを取り入れた総合討論を実施する。

c) 令和元年度秋季大会中の9月9日に第2回の委員会を行う。

d) 令和2年度春季大会に合わせたイベントの準備およびナイトポスターセッションの企画を進める。

e) 学会・大会への学生モニター参加制度構築に向けたワーキンググループおよび企業の若手研究者に対するアンケートの実施に向けたワーキンググループの設置を進める。

2) 水産・海洋科学研究連絡協議会について

a) 日本学術会議主催の公開シンポジウム「わが国の水産養殖の未来像」の共催に加わる。

・庶務関係

吉崎担当理事から下記の通り、報告があった。

1) 資格喪失者（会費未納）のうち会費を納入した以下の者を退会へ変更した。

池田光彦（正会員，平成 30 年度資格喪失）

田村典子（正会員，平成 25 年度資格喪失）

西山良子（正会員，平成 30 年度資格喪失）

2) 協賛について

共催，協賛，後援の取り扱い申し合わせ 3) を適用した。

① 第 17 回高付加価値食品開発のためのフォーラム

主 催 日本食品・機械研究会

協 賛 日本栄養・食糧学会 他 15 団体

日 程 令和元年 9 月 25 日・28 日

場 所 帝人アカデミー富士（静岡県裾野市）

希 望 協賛

負担金 なし

② 第 2 回海中海底工学フォーラム・ZERO

主 催 海中海底工学フォーラム・ZERO 運営委員会

協 賛 日本船舶海洋工学会 他 7 団体

日 程 令和元年 10 月 18 日

場 所 東京大学大気海洋研究所講堂（千葉県柏市）

希 望 協賛

負担金 なし

・企画広報関係

金子担当理事から，以下の報告があった。

1) 第 4 回委員会が 7 月 10 日に東京海洋大学品川キャンパスで開催された。日本水産学会誌の編集に関する議事が進められた。

2) 山川委員長からホームページの体裁について改善が必要であるとの説明があった。

3) 個人会員への日本水産学会誌の冊子体配布の廃止に伴い，現在フリーである J-STAGE のアクセス制限を，今後かけたほうが良いのではないかと意見が出された。この件に関して理事会で議論してほしいとの要請が出された。本件について以下の議論があった。

東海理事 「日本水産学会誌は Fisheries Science と異なり，オープンになっているのではなかったか。現状，オープンジャーナル化が進められている中で著者にとっては世の中に自分の論文を公開したいとの要望もあると考えられるのでアクセス制限についての考え方も変わってくる。論文に関して編集委員会で議論した場合にはオープンにする方が望ましいという意見も出てくるのではないか。」

佐藤会長 「両方の意見がある。」

金子理事 「前回の委員会の議論では制限する方の意見だけであった。」

舞田理事 「Fisheries Science の著作権については License to Publish（著作権）に移行していくが，今後，日水誌に関してもこの著作権の取扱いに関して議論の必要が出てくる。論文については編集委員会，それ以外は企画広報委員会の担当であり，日本水産学会誌全体として両方の委員会で議論が必要となる。」

- 東海理事 「J-STAGE に関して論文や企画記事単位でオープンにできるかどうか確認してほしい。」
- 金子理事 「確認する。」
- 黒倉理事 「試行的に学会誌の内容をオープンにしたことで一体何が変わったのか。実態が分からないと議論できない。何か変化はあったのか。」
- 佐藤会長 「どうして J-STAGE のアクセス制限を掛けたほうが良いという意見が出されたのか。」
- 金子理事 「都道府県の試験場の方からの会員特権が必要だとの意見がある。日本水産学会誌から情報を得ているのでこれが公開され、無償で得られるということになると会員であることの意義が希薄になる。」
- 萩原理事 「定年間際の会員からも会員メリットについての意見が出されている。」
- 吉崎理事 「企画広報の記事だけにアクセス制限をかけるということになると記事を読む人が減るといふ危惧もあるし、読まれない記事に労力をかけることに対しての消極的な意見も出てくるのではないか。」
- 佐藤会長 「他の部分でも学会員のメリットを作り出せば良いが、本件に関しては慎重に議論を進める必要がある。」

・財務関係

東海担当理事から、投稿料に関連した投稿規程の一部改正案の検討について説明があった。

・編集関係

東海担当理事から、次の報告があった。

- 1) 7月11日に開催された委員会にて、科研費研究成果公開促進費（国際情報発信強化）Bに5年の期間で採択されたことに伴う Fisheries Science のオープンアクセス総説の設置及び国際プロモーションの実施の推進、ビデオアブストラクトの検討について議論がなされた。
- 2) Springer Nature 社のコピーライトポリシーの変更に伴う Fisheries Science の License to publish, LTP 移行の議論を9月9日開催の編集委員会で行う。
- 3) 学会誌における編集委員の分野別での掲載について議論する。
- 4) テレビ会議の導入に伴って編集委員長候補者についてこれまでは東京近郊の委員を選出していたが、今後はこれを撤廃するとともに、学会事務局との関係上、関東の委員から委員長代理を置く体制について議論した。
- 5) インターネット会議ツール Zoom を使った委員会の検討を進めている。
- 6) Fisheries Science の 2018 年のインパクトファクターが 0.929 になり、前年度より高くなった。要因として Fisheries Science のオープンアクセスの総説が大きく影響している。

編集関係の報告について以下の議論があった。

萩原理事 「Aquaculture 関係のジャーナルのインパクトファクターも全体的に上がっている。」

東海理事 「Fisheries Science もインパクトファクターは上昇したが、同一分野の雑誌一般的にインパクトファクターが上がっているので学会誌としてのランクは変わっていない。他の雑誌でも戦略的に引用されているような方策を立て

ているのではないか。」

- 黒倉理事 「ランクを上げるには他のアイデアで差別化するための方策が必要だろう。」
- 東海理事 「編集委員会の議論ではこれまでインパクトファクターの向上に向けた取り組みを行ってきたが、会員ための *Fisheries Science* の観点から、バランスを取って運営していくべきとの意見もある。」
- 金子理事 「会員のためとは具体的に何か。」
- 東海理事 「初めての投稿をしやすい雑誌，でしっかり査読してもらえると面も打ち出していきたい。」
- 金子理事 「インパクトファクターを上げることと投稿者に寛容な査読を行うことは相反するように思える。」
- 東海理事 「そういうことなのでバランスを取って進めたい。」
- 黒倉理事 「二者択一にはならない。非常に高いインパクトファクターを狙うのは学会誌編集の方針としては誤りで上位 10 番くらいを狙うくらいが良いのではないか。」
- 東海理事 「少なくともインパクトファクター1 くらいまでには上げたいが，現在まで達成されていない。」
- 黒倉理事 「インパクトファクターの上昇という目標を達成した時点で再度方向性を検討することで良いのではないか。」
- 東海理事 「目標を達成した時点で会員へのサービスを検討すべきという意見が編集委員会でも出始めている。」
- 舞田理事 「インパクトファクターの数値も大事だが，関連ジャーナルの中の順位も大事で順位が上昇しないのはなぜかという点を考えるべきだと思う。」
- 佐藤会長 「掲載料を下げたことで会員の投稿数が増えたのではないか。」
- 東海理事 「把握していないが，次回の委員会で資料が出てくると思われる。」

・学会賞関係

萩原担当理事より，公益財団法人農学会が表彰している農学進歩賞の候補者を選出したとの報告があった。また，メール会議で学会事務局が発信したメールが *g-mail* にブロックされていたことが話題となったが現在解決したのと報告があった。

・出版関係

越塩担当理事より，7月10日に開催された委員会について主に水産学シリーズ韓国版について議論し，*e-水産学*シリーズの企画案募集についてシンポジウムだけでなく懇話会にも企画案の募集について要請したとの報告があった。

・水産技術誌監修関係

日向野担当理事 特になし。

・国際交流関係

中田担当理事及び国際交流委員会委員長を務める萩原理事より，以下の報告があった。

- 1) 秋季大会開催中の令和元年9月9日に委員会を開催する。次回春季大会におけるSDGsセッションの進め方および若手会員の関連国際学会への派遣について議論する。
- 2) 本年度のイギリス諸島水産学会へ若手会員を派遣した。派遣された若手会員へは日水誌への報告記事の執筆を打診する。次回のイギリス諸島水産学会への派遣について周知し，若手研究者を募る。

3) アメリカ水産学会への若手研究者の派遣は幹事の会員に依頼しているが、今後は違う選抜方法も検討する。

本報告について以下の議論があった。

黒倉理事 「本学会のホームページに募集の情報を掲載してはどうか。」

萩原理事 「水産学会のニューズレターで次回のイギリス諸島水産学会のテーマについて紹介する。」

佐藤会長 「イギリス諸島水産学会との学術交流協定の更新を行った。また、韓国水産学会との学術交流協定も更新する予定である。」

越塩理事 「イギリス諸島水産学会の参加人数は 120 名であるが、規模は毎回この程度か。」

佐藤会長 「テーマによると考えられる。」

萩原理事 「次回の概要はホームページに掲載されている。2020 年 7 月 27～31 日の日程でノッティンガム・トレント大学にて開催される。全体のテーマは Fish in a Dynamic World であり、かなり広いテーマでシンポジウムが行われる。」

黒倉理事 「現時点で周知できれば十分対応可能である。」

萩原理事 「来年 10 月にはアデレードで WFC2020 が行われ、本学会会員が提案しているセッションもあるので多くの方に参加してほしい。」

・シンポジウム関係

横山担当理事から、次の報告があった。

- 1) 秋季大会期間中の令和元年 9 月 9 日にシンポジウム企画委員会を開催する。
- 2) メール会議にて令和 2 年度春季大会中のシンポジウムについて審議を行った。

・水産教育関係

舞田担当理事から、次回春季大会で委員会主催のミニシンポジウムについて提案しており、タイトルは「水産学教育をめぐる現状、問題点と解決」である。大会期間中の令和元年 9 月 10 日に委員会を開催し、ミニシンポジウムの詳細について議論する。

・水産政策関係

黒倉担当理事から、大会期間中の令和元年 9 月 9 日に委員会を開催し、片山委員長を中心に議論する。情報として国家管轄権外区域の海洋生物多様性 (BBNJ) の保全と持続可能な利用に関して国際的な動きがありそうだとの報告があった。

・漁業・資源管理関係(インデント調整した。金子)

東海担当理事から、次の報告があった。

- 1) 平成 31 年度春季大会中の第 71 回漁業懇話会講演会「太平洋クロマグロの資源管理と定置網漁業における漁獲コントロール技術」の内容については、月刊海洋 10 月特集号で発行される。
- 2) 次回春季大会時の漁業懇話会講演会では「ギアテレメトリー」をテーマとする。

・水産利用関係

横山担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 6 月 28 日に第 2 回水産利用懇話会委員会及び同日第 1 回講演会を日本大学生物資源科学部藤沢キャンパスにて開催し、330 名の参加があった。
- 2) 11 月 22 日に第 3 回委員会及び同日水産資源をテーマとして水産利用懇話会第 2 回講演会を開催する。

・水産増殖関係

家戸担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 令和元年度秋季大会中の9月8日に第2回の水産増殖懇話会委員会を開催し、来年度春季大会中に令和2年度第1回増殖懇話会講演会について議論し、ヒラメ・カレイの飼育と色素との関係をテーマに開催することとなった。
- 2) 令和2年度第2回増殖懇話会講演会は秋季大会中に北海道大学にて開催する予定である。

・水圏環境関係

中田担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 秋季大会期間中の令和元年9月8日に委員会を開催した。来年の春季大会での貧酸素水塊の内湾生態系に及ぼす影響を持続的漁業から評価していく内容のシンポジウムの開催が提案され、委員会として了承した。
- 2) 同9月8日に水産環境保全委員会 研究会「近年の麻痺性貝毒原因プランクトンの発生拡大を巡る問題と研究の課題」を開催している。
- 3) 令和2年1月11日に東京海洋大学にて沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウムを開催する予定である。内容は沿岸気候変動における各学会の対応状況をテーマに取り上げる。土木学会が中心に企画を進めている。

・男女共同参画関係

高野担当理事から、男女共同参画学協会連絡会について報告があった。

- 1) 令和元年8月に第3回運営委員会が開催されたが本学会の委員は欠席した。
- 2) 令和元年10月12日に開催されるシンポジウムには3名参加し、学会の活動紹介やポスター発表を行う予定である。
- 3) 連絡会から要請のあった女性比率のアンケートに回答した。

・社会連携関係

安井担当理事から、6月上旬に各支部に配布した社会連携のテンプレートについて回答の要請があった。情報集約については当面北海道支部の庶務幹事が事務局と連携して取りまとめを行い、令和2年2~3月に理事会で報告する。また、北海道支部大会での公開講座に連携させて共同開発した食品等の製品を展示する計画を進めているとの報告があった。

・将来計画関係

中田担当理事から、前回理事会後の業務執行会議にて学会の将来計画の枠組みについて提案し、理事からの意見聴取ができた。特に会員の確保に関する問題、会員にとっての学会の意義、水産業と水産学あるいは学会との関係を含めていろいろな意見があった。さらに若手の会員の意見聴取は重要であるとの位置づけから若手の会と連携して積極的な意見聴取を進めたいとの意向が示され、11月開催の理事会でこれからの審議について進めたいとの報告があった。

・北海道支部、地域連携関係

安井担当理事から、次の報告があった。

- 1) 次期支部幹事の選挙を行っている。
- 2) 令和元年11月2日、3日に令和元年度北海道支部大会を北海道立道民活動センター「かでの2.7」にて開催する。令和元年8月22日にホームページ上に案内を掲載し

たとの報告があった。

3) 令和2年度の秋季大会を9月11日～14日の日程で北海道大学函館キャンパスにて開催する。現在会場等の詳細を決定しているところである。大会委員長は木村暢夫水産学部長に決定し、実行委員会も組織した。

・東北支部，地域連携関係

佐藤会長から，第2回の幹事会をメール会議にて開催し，理事会の報告と東北支部会について審議を行ったのと報告があった。支部会は令和元年10月5日，6日に東北大学農学部にて開催される予定である。ミニシンポウム「東北地方におけるアサリ資源の現状と課題」を同時開催することが承認されたとの報告があった。

・関東支部，地域連携関係

舞田担当理事から，7月26日に東京海洋大学品川キャンパスにて支部幹事会を開催し，まず，令和元年度支部事業計画について承認した。また，令和2・3年度の支部は日本大学が担当すること，令和3年度の春季大会は東京海洋大学が担当することを承認したとの報告があった。

・中部支部，地域連携関係

横山担当理事から，令和元年度秋季大会中の9月8日に支部幹事会及び総会を開催した。また，同日中部支部が主催するシンポジウム「人，環境にやさしい「海からの情報づくり」～ICT，IoT技術と地域水産業・海洋環境～」を開催している。なお，本シンポジウムは水産海洋学会日本海研究集会との共催，また，福井県立大学公開講座として開催されるとの報告あった。

・近畿支部，地域連携関係

家戸担当理事から，今年は前期例会を行わなかったので7月にメール会議にて支部幹事会を行った。後期例会は令和元年11月23日に近畿大学農学部で水産増殖学会の第18回大会と合同で行う予定である。詳細はホームページで案内するとの報告があった。

・中国・四国支部，地域連携関係

日向野担当理事から，令和元年10月26日，27日の予定でワークピア広島にて支部大会，総会及び合同シンポジウムを開催する。26日は支部幹事会及び大会が行われ，27日には中国・四国支部例会・瀬戸内海水産フォーラム合同シンポジウム「1980年代以降の生物相の変化と適応策」が開催されるとの報告があった。

・九州支部，地域連携関係

越塩担当理事から，例年通りシンポジウムと総会を行うとの報告があった。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

吉崎担当理事 特になし。

・東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

黒倉担当理事から，本特別委員会が終了するまで2年を切っているので今後は今までの活動を総括するとの報告があった。

・財務検討委員会（特別委員会）

東海担当理事から，オンライン決済 Paypal について検討したとの報告があった。

②その他確認事項

(1) 令和元年度次回理事会の日程

佐藤会長より，令和元年度第6回理事会の開催日時説明があり，日程を確認した。

以上をもって議案の審議等を終了したので、14時12分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

令和元年9月8日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長（代表理事）

監 事